

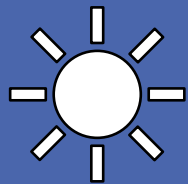
ユースの「生きづらさ」
アンケート&インタビューから
見えてきたこと

2024年5月12日

大学女性協会 調査・研究委員会

片岡雅子

調査の目的



ユースの皆さんの視点を積極的に学び、
誰もが生きやすい希望ある社会を共に実現していくために

1. 現在のユースが抱えるさまざまな問題を把握する
2. 問題の背景にある社会的障壁を認識する
3. 社会的障壁の除去や解決方法を検討する
4. どのように助け合うことができるかを追究し、提言に繋げる

調査方法



- 全支部へのアンケート調査協力の呼びかけ
- 支部を通じて大学、学校関係者に依頼、あるいは、学生に直接依頼
- アンケートの回答は、オンライン「Google form」で収集
2023年5月～7月中旬
- インタビューは、対面あるいはオンラインで実施
2023年7月下旬～9月

アンケート 291名 インタビュー 12名
協力支部 10支部



アンケート

協力をお願い！

内容

Google forms アンケートに回答
<https://forms.gle/T5F7RZ7VMUQvqWTKA>



調査目的

- 現在のユースが抱えるさまざまな問題を把握する
- 問題の背景にある社会的障壁を認識する
- 社会的障壁の除去や解決方法を検討する
- どのように助け合うことができるかを追究し、提言に繋げる

テーマ

「ケアしあう希望ある社会を目指して
～ユースの生きづらさを探る～」

趣旨

わたしたち大学女性協会は、これまで様々な教育問題に関心をもってきました。ユースの皆さんの視点を積極的に学び、誰もが生きやすい希望ある社会を共に実現していきたいと願っています。

※「ケアしあう社会」の「ケア」はともすれば「支援する者・される者」という上下関係に陥りがちですが、私たちは、お互いの力のバランスが保たれた思いやりのある助け合いとして、また、行政の福祉政策なども含めた広く包括的な概念としてとらえています。

スケジュール

2023年7月15日 締め切り

- *個人・機関が特定されることはありません。
- *ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

主催 (一社) 大学女性協会 調査・研究委員会
<https://www.jauw.org/>

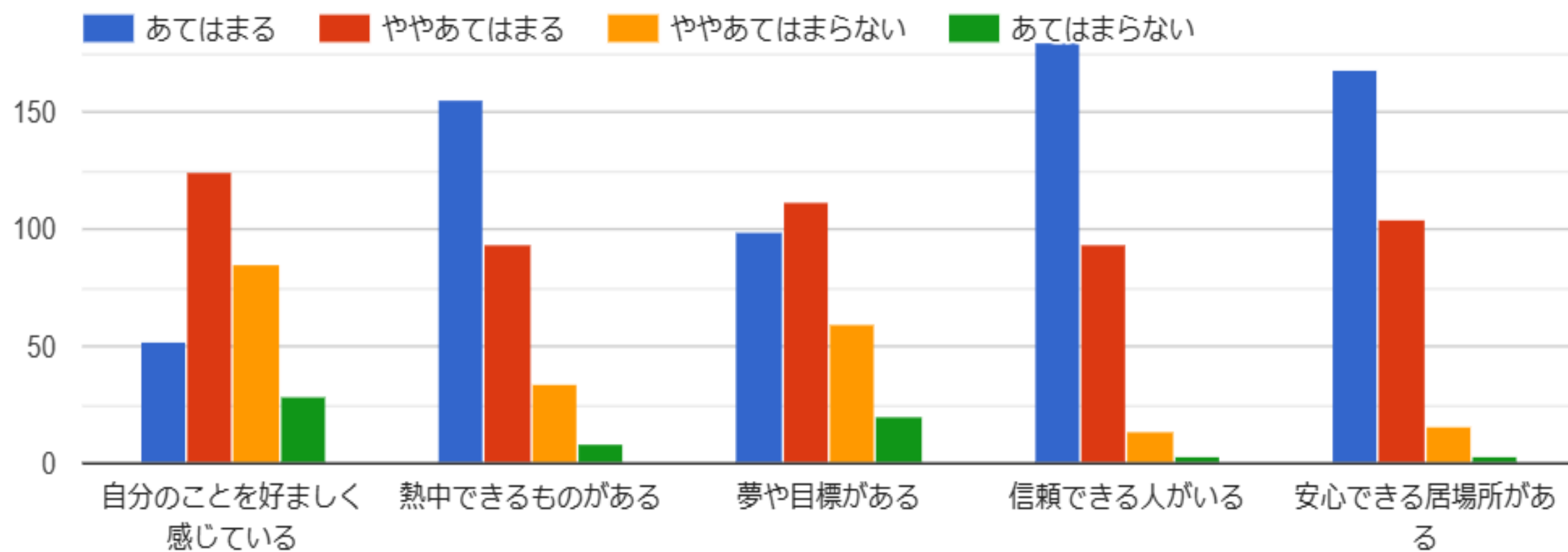
E-mail research.jauw@gmail.com

アンケート

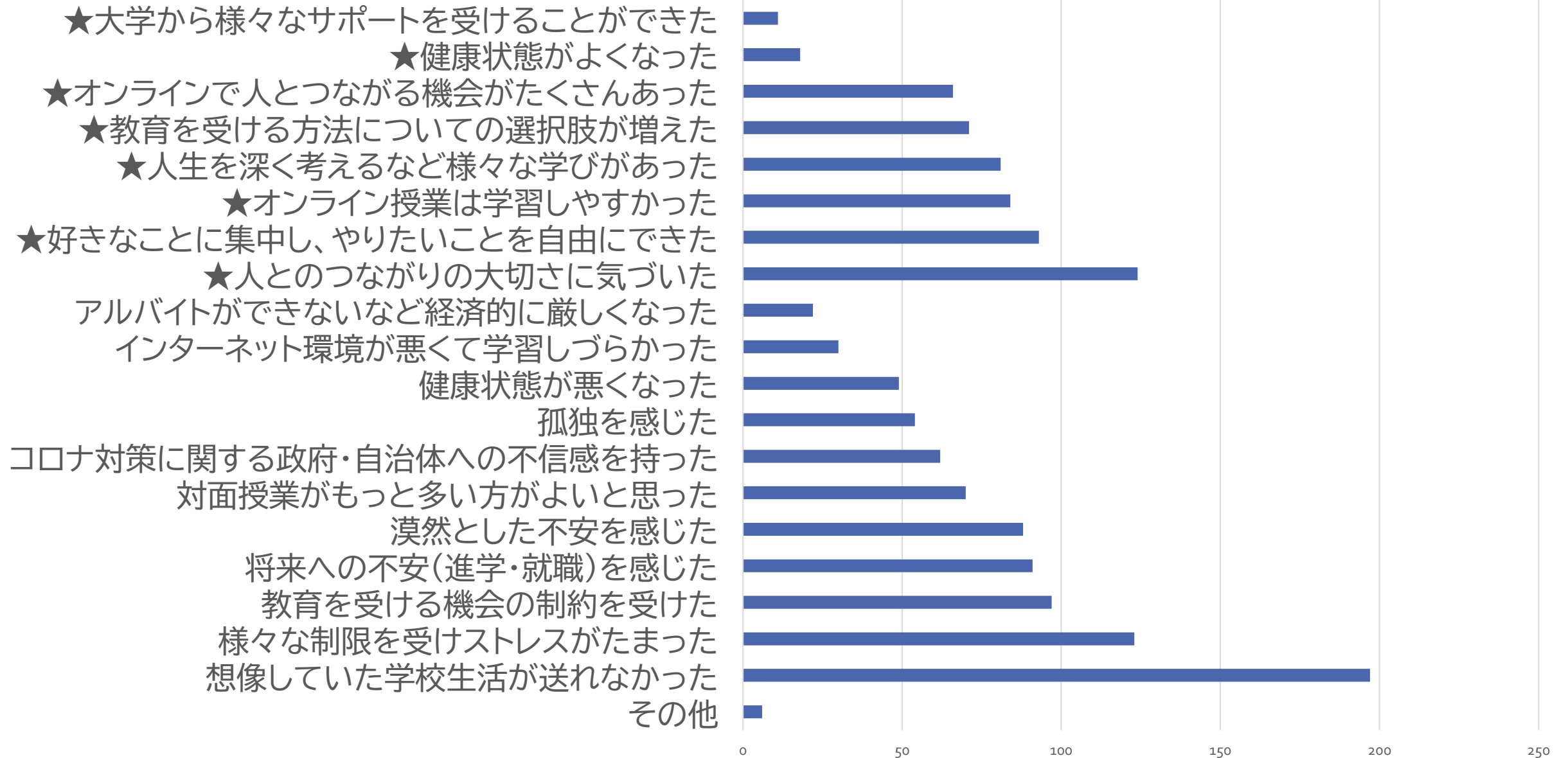


1. ご自身のことを教えてください。
2. コロナ禍であなたはどんな影響を受けましたか。
3. 受けた影響により、悩んでいることや困りごとをどのように解決、改善しましたか。
4. 設問2で選んださまざまな悩みや困りごとを改善、解決しようとするにあたり、障壁(妨げ)となったものは何ですか。
5. 設問4の問題解決のために行なった行動を具体的に教えてください。
6. 学内や学外で、ボランティアやイベントなど、社会活動に参加していますか。
7. 参加している方にお聞きします。参加している活動は、SDGsの17の目標のどの項目に関係しているのかチェックして下さい。
8. 参加している方は、具体的な活動内容を教えてください。

1. ご自身のことを教えてください。



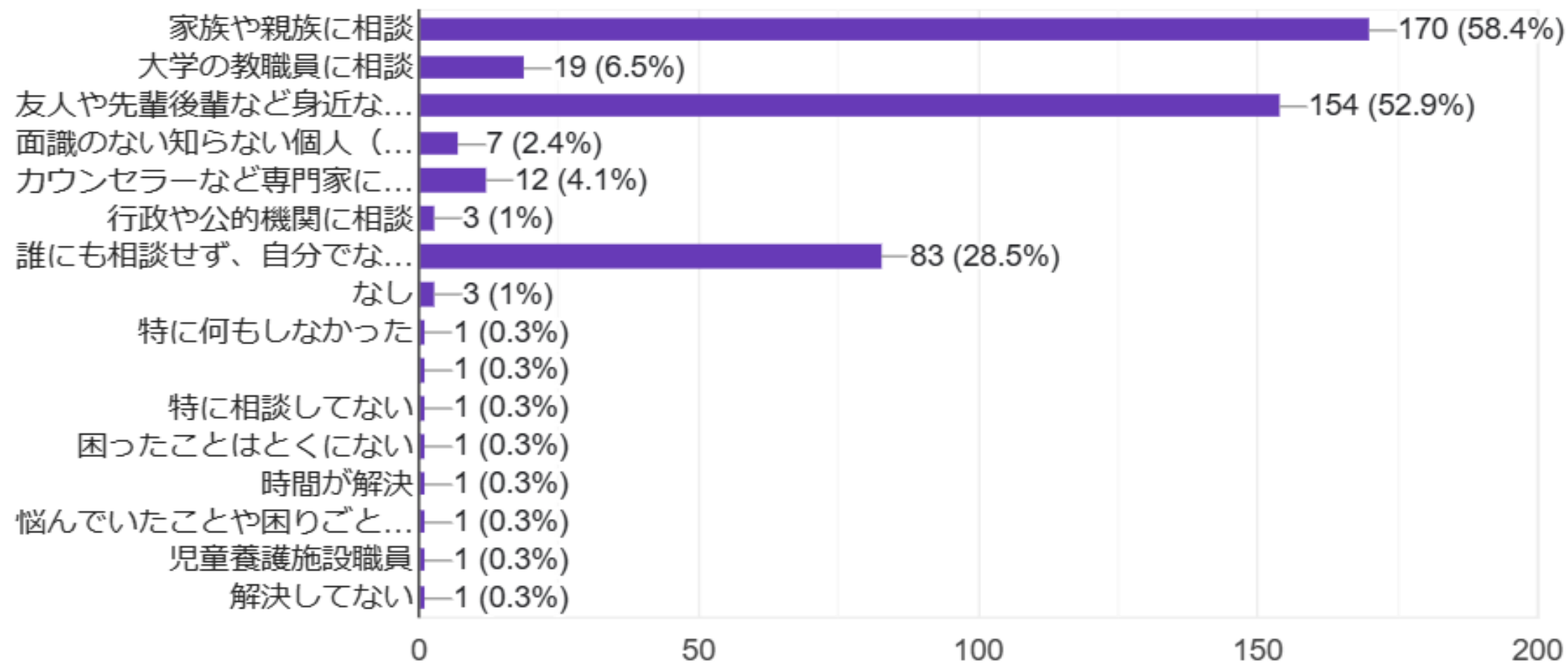
2. コロナ禍であなたはどんな影響を受けましたか。



3. 受けた影響により、悩んでいることや困りごとをどのように解決、改善しましたか。

(いくつでも)

291 件の回答



4. 設問2で選んださまざまな悩みや困りごとを改善、解決しようとするにあたり、障壁(妨げ)となったものは何ですか。

モチベーション低下
ネット環境
人の目
経済的不安 お金
コロナによる行動制限
人間関係
相談 誰に? 難しい
怖い 伝わらない
政策への不安

5. 設問4の問題解決のために行なった行動を具体的に教えて下さい。

勉強
アルバイト
相談 親 カウンセラー
オンライン
会話 音楽 SNS
運動 散歩 睡眠
早寝早起き 食事
図書館・本屋
気にしないようにする
諦める 無視 客観視
考えすぎない
コロナ対策

インタビューの内容

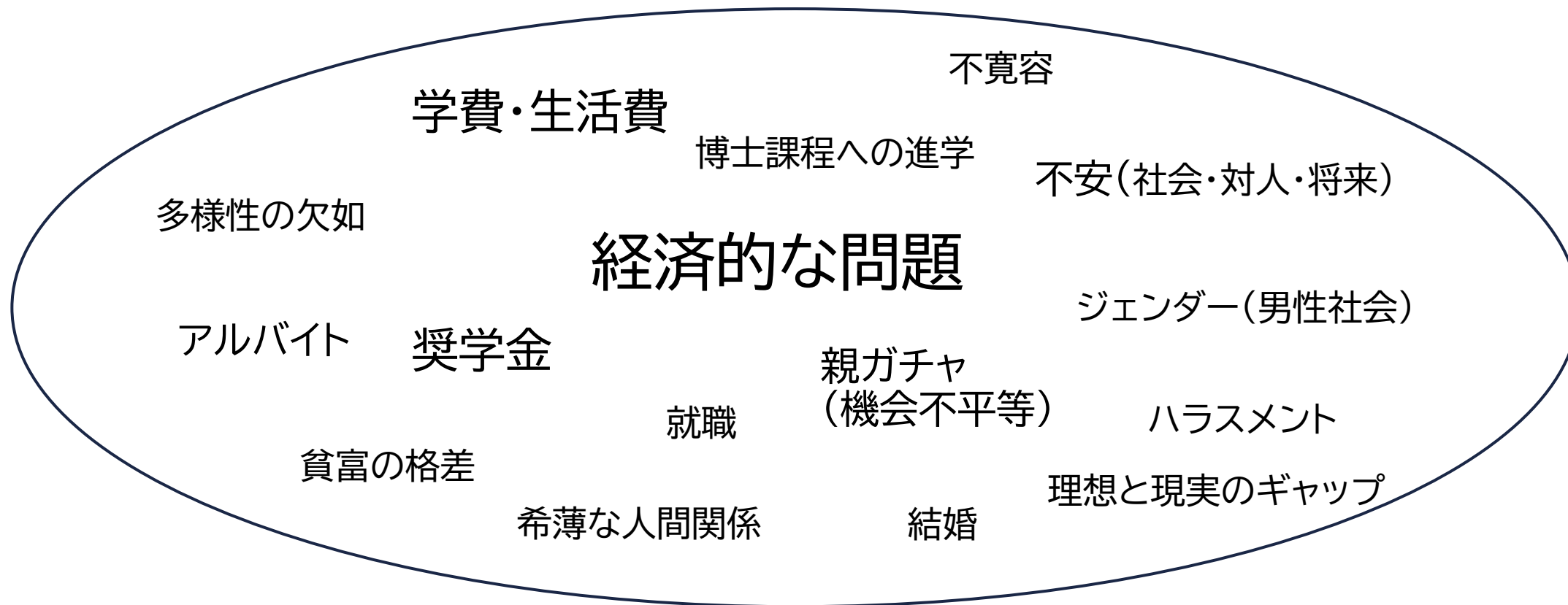


1. なぜインタビューに応えようと思ったのでしょうか？思いをお聞かせください。
2. 大学生活は今どんな状況ですか？ 授業・部活動・サークル活動・バイト・学外の活動など
3. 社会活動をしている方へーどんな活動をしていますか？また、関わるきっかけは？
4. 今、大学生活であなたがいちばん問題と感じていることはどんなことですか？
あなた自身のことでも、まわりを見て感じていることでも構いません。
5. 行政・企業・大学等に求めることがありますか？
6. 大学女性協会に求めること、何か共にできることがありますか？



インタビューからみえてきたこと

やりがいを感じ非常に充実している 研究が大好き ロールモデルになりたい



学生からの要望⇨大学女性協会

▷学生の声をまとめて発信し、行政などに届けてもらいたい。

▷ユース同士のつなぎ役をお願いしたい。

▷外部の学生と一緒に何かを行なうなど、一步を踏み出してもらいたい。

▷意見や情報交換がカジュアルな雰囲気のできる場の提供。

▷SNSでの発信があれば、つながりができるのではないか。

▷女性に対するハラスメントや孤独で寂しいときに相談できる場所。

▷いろいろな分野の女性博士の講演を聴く機会の提供。

インタビューの感想

- ・ユースと対話することの大切さを感じた
- ・意識高い系という言葉や、人の目を気にするなど、やりたいことができていない人がいる
- ・学生の何かやりたいに伝えたい
- ・困難な中でも学問への愛情を持ち、目標に向けて行動する姿に感銘を受けた
- ・私たち大学女性協会にできることは何か真剣に策を考えていきたい
- ・テーマである「生きづらさ」声なき声が拾えていない感じがする
- ・コロナ禍は人とのつながり、社会のあり方について深く考える期間であったようだ
- ・孤独を感じていたためインタビューに応じてくれた学生がいた
- ・シンポジウム、セミナー、ワークショップなどを共に開催したい
- ・若者ならではの社会の矛盾や理不尽さに対する気づきと、課題解決に向けた旺盛な発想力と実行力に脱帽

ユースとの報告会について 2024. 2. 27

ユース3名と大学女性協会のメンバー12名
オンラインで実施

内容

- ・アンケートとインタビューを振り返って
- ・大学女性協会への要望
- ・ユースと関わる難しさは？
- ・シニアと関わる難しさは？

【振り返りと要望】

- ・ユース同士をつないで欲しい
- ・JAUWにインターン制度ができれば
- ・JAUWには行政への働きかけを行なって欲しい
- ・国際化の必要性 実体験から英語力、議論の力不足を感じた→日本の教育のあり方
- ・家庭での議論も大切 日本の子どもが意見を持つことにも制限があるように感じる

【ユースと関わる難しさ】

- ・対等な立場でないと感じる へりくだったりフランクになりきれていないと感じる
- ・反応を見すぎ 鈍感になることも必要
- ・シニア側も圧倒しない 年齢を忘れる 共感力をつける
- ・共に活動しているときはギャップは感じない

【シニアと関わる難しさ】

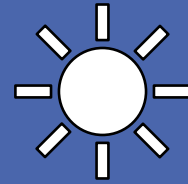
- 若い人ってこうだから、
という決めつけ
- 萎縮することはある
- 気にしすぎているかも
- レジェンドみたいな方達
なので、あ~となってしまう

【報告会を終えて】

- ドアが開いた気がする、是非継続を
- 何を言っても大丈夫という場づくりが大事



今後の課題



- アンケートとインタビューのまとめ作業
基礎集計、クロス集計に取り組む
- ユースの方達とのオンライン会の継続
- 大学女性協会に望むことに応えていく
- 提言につなげていく